丸山湿原群保全の会会報

（第 118 号）

発行日：平成 29 年５月 16 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

早いもので５月も半ばを迎えています。夏のような日があると思えば肌寒い日もあり、体調管理が難しい時期です。ご自愛ください。

遅れていた季節も時間を取り戻すかのように進んでいき、花や虫が爆発的に活動を開始しています。西谷地域では田植えも最盛期。賑やかな時期となりました。水田を作るとカエルの活動は恐ろしく活発で。作業している今もアマガエル（ケロケロ）シュレーゲルアオガエル（コロコロ）トノサマガエル（ゲロゲロ）と一斉に鳴き、止むことがありません。窓から、「うるさい！」と叫んでも沈黙は一瞬。すぐに再開されます。まだウシガエルが入らないのがせめてもの救いです。

贅沢ととらえるか、騒音ととらえるか難しいところです。まー贅沢なのでしょう！

（今住　５月 14 日作成）

活動報告

★4 月 23 日（日）定期活動　８名で活動

【ササ刈り】

前回の予告通り、湿原までの歩道ササ刈りを行いました。（すいません。私は所要のため参加していません。）**竹ポスト（看板）付近が気になっていたので、そこから駐車場付近へ向かって手刈りで作業。**午前だけの作業で、もう少しできるかと思っていましたが、竹ポスト周囲と道沿いを５０ｍぐらい刈り取る作業に。

ササ刈りビフォー

アフター

刈り取りで気づいたことですが、イノシシの頑張りが半端じゃない。ツチアケビが毎年見られる付近やツクバキンモンソウが多く見られる場所がボコボコに掘り起こされています。適度な攪乱は必要かと思われますが、どうしたらいいものでしょうか。今年はツチアケビ無理かも…

ササ刈り作業風景

イノシシは農家にとって嫌われ者。時に畔を崩し、作物を食い荒らします。以前イノシシに水田をやられ、収穫ほぼ０という年を私は経験しています。スズメの涙ほど収穫できた米も、なぜか臭い米になり食べられたものではありませんでした。（嘘のような本当の話）

県や市の農政課が対策に乗り出し、無償（条件付き）で電柵や鉄のメッシュ柵を配っています。農業

をするのも檻の中でしているようです。**農地に入れなくなったイノシシが丸山湿原周辺などに多く出没しているのかもしれません。適度な頭数管理は必要なのでしょう。**

とはいえ、遊歩道のササ刈り（草刈り）はもう少し作業が必要です。機会を見て実施したいと思います。

【確認できた花】

【トリガタハンショウヅル】（鳥形半鐘蔓）

湿原までの歩道脇、**クロモジの木に巻き付いている。ほぼ毎年花を見るが、淡い緑色で目立たない。鳥形は鳥の形ではなく、四国の鳥形山で発見されたことによるとか。半鐘は花の形を見れば納得である。**「火事だ！火事だ！」と言っても今知る人はないか？14 都府県でＲＤＢ指定。丸山でも確認は一か所のみ。

【ミヤマガマズミ】（深山莢迷）

ガマズミの仲間はガマズミ・**コバノガマズミとミヤマガマズミが見られる。ミヤマガマズミは葉が少しとがっていて、表面がツルツルしている。それに対しコバノガマズミは葉に毛が生えていて、触るとビロードのような感じを受ける。**秋に赤い実をつけ、食べられるがあまりおいしくはないらしい。酒に付けると赤い色がつき美しいという。ガマズミのズミは「染み」から来ているという説もある。

【ウラジロ】（裏白）（花ではありませんが新芽が面白いので・・・）

ご存知お正月の縁起物。シダ植物。いつも湿り気のある所に生育。珍しくもないが、意外に栽培は難しいらしい。正月前になるとよく注連縄（しめなわ）業者が山に採りに来ていた。**なぜ縁起がいいかというと、葉が緑のうちに次の葉が出る。さらにその上に写真のように新しい葉が。代を重ねる。裏が白いことからともに白髪が生えるまでとか末広がりになるとか諸説入り混じった縁起物である。**名前は説明の通り裏が白いから。この白さは蝋質で燃え出すと止まらない。**しかし大きくなると、日陰の原因となり、下の植生はなくなる。少々困りもの。**

【ヘビイチゴ】（蛇苺）

畦などどこでも見られる。よく似たものにミツバツチグリがる。ミツバツチグリは、葉がもう少し細くシャープな感じである。イチゴの名前の通り赤い実がなり、子ども時代食べたことがあるがうまくない。なぜヘビのイチゴに？蛇が出てきそうなところに生える。実を食べに来た生き物を蛇が食べたなど諸説あり。**ヘビイチゴジャムなるものがあるそうだが、お味はどんなものだろうか？一度作ってください。無毒。**

（他に、ウワミズザクラやマルバアオダモ・ウリカエデ・ミツバアケビなど）

★5 月 13 日（土）定期活動

５名で活動（神大　特命助教１名を含む）　雨の中傘をさして・・・雨ほぼ上がる

定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去　神大農学部特命助教から取材（地域振興）

目的	市内	市外
丸山	21	26
ハイキング	19	25
その他	4	1

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度	PH
入口	10：00	20.8℃		
視点場	10：40	20.6℃		
第３湿原	10：25	【16.1℃】	26.6μS/cm	7.6
第１湿原	10：50	【19.1℃】	25.8μS/cm	7.6
第２湿原	11：18	【18.7℃】	32.3μS/cm	7.8.

来場者数　計 93 人

（竹筒ポスト人数）

【竹筒ポストに産卵】

前日からの雨が続き心配されましたが、回復傾向ということで実施。**神戸大学農学部の特命助教が秘密の任務を携え、加西の研究センターからお見えになりました。網引湿原の代表からの紹介ということで、地域振興の研究をなさっているとか。果たして、丸山での活動がモデルケースになるのか乞うご期待。（勝手なことを言っています。）**

雨模様の中の活動は、会や湿原のレクチャーをしながら定期基礎調査。**雨のせいか、PH はほぼそろっていました。しかし、前回も含め意外にアルカリに傾いていると感じます。**

シジュウカラ？の取り出された巣

定期調査の最初、竹筒ポスト人数確認。外して中を見てびっくり（気持ち悪！という声も･･･）。

以前にもありましたが、**ポストの中に鳥の巣が…。しかも卵は割れている。とりあえず取り出し、作業（石の数確認）。鳥の巣を確認してみると、苔を大量に使い上部は羽毛など柔らかい物で作られています。卵の大きさは約２～2.5 ㎝、やや色が有り、斑点模様。木のうろのようなところに営巣。という条件で、シジュウカラ（四十雀）ではないかと判断しました。**

「老いの名もありとも知らで四十雀」　（松尾芭蕉）

という俳句もあるようで、名前の由来は「４０歳から」と私は思っていたのですが（頬が白く歳をとった様子）、調べてみると鳴き声から来ているというのが有力。しかし芭蕉は私の解釈と同じですよね！（芭蕉の場合は、もっと深く陰陽道が絡んでいるとか？）同じようにゴジュウカラ（五十雀）という鳥もいます。これは多分シジュウカラに似た鳥ということつけられたのでは？

さて卵を割った犯人ですが、おそらくカラス。可能性としてポストに石を入れたときに割れたのかも…いや、カラスに違いありません！最近のカラスは家に作られたツバメの巣まで襲います。生きていくためにどんどん図太く進化しています。だから、犯人はカラスです。きっと…？

ツクバネウツギ

【観察できた動植物】

雨の中、傘を持ちながらの観察はおつなもの。普段とはまた違ったものが見えてきます。普段見つけらなかったものまで発見できたりするものです。**しかし今回は特になし。残念！**　行く道すがら、この時期定番の**ツクバネウツギ**が咲いていました。盛りを過ぎたのか、少し元気がありません。昨年の会報（104 号）に説明あり。

タニウツギ

ウツギ（卯の花）とは仲間ではありません。もう一種、**タニウツギ。**これもウツギの仲間ではなく、ツクバネとタニはスイカズラ科。ウツギはアジサイ科に分類されています。（アジサイと同じように中空の茎をしています。）今年は、タニウツギとウツギ（卯の花）はあまり見かけません。これも季節のずれが原因でしょう。

カマツカ

やはり木本ですが、はげ山（ズリ）付近では**カマツカ（鎌柄）、別名「牛殺し」が咲いていました。**恐ろしい名前ですが、**カマツカは鎌の柄に利用。牛殺しは牛がこの木に挟まると抜けず動けなくなることから。鼻輪にも利用。そのくらい強靭な木で、今でも「牛殺しの柄」で販売されています。日本人はわかりやすい名前を付けるものですね。**

ニホンアカガエル

モチツツジもようやく咲き出しました。コバノミツバツツジが終わると間髪入れず咲いていたような気がするのですが、今年はじわじわと咲いてくるイメージです。**イシモチソウはまだ開花せず。**次回には終わっているかも。しかし数（個体数）は確実に増えています。

イシモチソウ

動物は、久しぶりに**湿原端でニホンアカガエルに出会いました。ようやく春眠から覚めての活動でしょうか。**産卵は終了していますので、来年に向けての体力の蓄えでしょう。他の生き物の体力の蓄えにならぬことを祈ります。

【不思議生物】冬虫夏草（載せるべきか悩みました）

クビオレアリタケ

アリです。アリの種類は**トゲアリ。何と環境省 RDBⅡ類に指定されています。三田や西谷には結構いるようです。**しかし、よく見ると奇妙なことに気づきませんか？実は死んでいるのです。ミイラ？いえいえ、首の後ろから何やら出てきているではありませんか。**キノコです。実は菌に寄生されたトゲアリ。冬虫夏草の一種で、クビオレアリタケというそうです。**

先日ガイドをしたとき、**参加者の若い研究者が発見。**のち同定されました。**マニアが捕りに来るからとブログからは削除。**

中華料理に使うものとは違い、料理には利用できないようですが、漢方薬として高値で取り引きされるようです。**この菌は、すごいことにアリの脳を支配して自分が（菌が）最も都合よく、しかも落下しないようにアリをコントロールし死なせるそうです。**画像を確認すると、確かに口顎で木を挟み、足は枝をきっちりつかんでいます。スゴイというか恐ろしい。まだ**成長途中のキノコ**です。こんな能力持ちたい？悲しいかな、**このトゲアリ自身も他のアリの巣に寄生し乗っ取るアリです。それがまた菌に乗っ取られる。自然界は不思議です。　※冬虫夏草の情報は取り扱い注意。**自分で見つけることができたらスゴイ！**場所はナ・イ・ショ！**

次回活動日　５月 28 日（日）６月 10 日（土）25 日（日）

総会６月 25 日（日）午後に決定！　　資料については６月中旬までに送付致します。

参加できない方は、資料に同封する委任状の提出をお願いします。